

疾患ゲノム研究センター大学院セミナー

# 原 英二 博士

癌研究会癌研究所がん生物部 部長

## 細胞老化の分子機構 とその役割

6月25日 (金) 17:00～18:30

疾患ゲノム研究センター1階  
交流ホール

正常な細胞に発癌の危険を伴うストレス「発癌ストレス」が生じると、細胞増殖は不可逆的に停止します。この現象は「細胞老化」と呼ばれ、癌抑制機構として重要な働きをしていると考えられています。原博士らは、細胞老化が生体内でどのように誘導され発癌を防御しているのか、また、その作用機序が発癌過程でどのように破綻するのか研究を進めておられます。原博士は、2008年まで当センターで活躍され、現在は当センターの客員教授も兼務いただいています。多数のご来聴をお待ちしております。本セミナーは大学院特別講義を兼ねます。

*J. Cell Biol.*, 186: 393-407 (2009); *Cell*, 137: 1088-1099 (2009)

*Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 104: 15034-15039 (2007)

*Nature Cell Biol.*, 8: 1291-1297 (2006); *EMBO J.*, 24: 3104-3116 (2005)

*J. Cell Biol.*, 167: 553-560 (2005)

問い合わせ先：疾患ゲノム研究センター遺伝子実験施設(大学院医科学教育部免疫系発生学)  
高浜洋介 (x9452, takahama@genome.tokushima-u.ac.jp)